

科技高 いきもの記

Vol.27 2021.5.18

佐藤龍平

不気味な幼虫の正体は美しいテントウムシ アカホシテントウ



動かなくなった幼虫（前蛹）

脱皮殻の中の蛹

アカホシテントウの蛹と前蛹 普通は幼虫の抜け殻は残さないが、アカホシテントウは抜け殻の中で蛹になるという変わった方法をとる。この方が抜け殻を鎧のように使えるのだろうか。見た目はかなり強烈だ。

—羽化の様子—（下図）



羽化したての成虫（5月13日）

（左）幼虫や蛹の姿からは想像ができないほど美しい。羽を伸ばして乾かす。

（上）1.5時間後、羽は折りたたまれ、蛹の時の不要物をおしっことして排出した。

（右）10時間後にはすっかり色がついた。



前蛹

—蛹化の様子—
（右図）



タマカタカイガラムシ（メス）

アリ

アカホシテントウの幼虫

①タマカタカイガラムシを守ろうとするアリと捕食しようとするアカホシテントウの幼虫。アリはカイガラムシから甘露をもらう代わりにボディーガードになっている。



③前蛹の背中が割れて蛹が姿を現した。蛹が身をくねらせている。（4月26日）



②動かなくなった終齢幼虫。触っても動かないが、敵撃退用の黄色い液体（アルカロイドを含む）を出してきた。まだぎりぎり蛹にはなっていないようだ。



④蛹の色が濃くなり全く動かなくなった。からだ固まってきたようだ。

4月23日、今年卒業した18期生のSくんから突然連絡があった。「久しぶりに猿江公園に行ったら、大好きなアカホシテントウの蛹がありました。」というのだ。在学時から生き物について色々教えてくれる、私にとっては自然観察の先生のような存在なのだが、卒業後もこんな風に連絡をくれるのは大変嬉しい。それで、アカホシテントウだが、Sくんが添付してくれた写真を見てギョッとしてしまった。何だこのおぞましい姿の蛹は?! なんでも、トゲトゲ姿の幼虫は脱皮した時の抜け殻の中で蛹になるのだそうで、ぱっくり割れた背中から見える真っ黒な蛹がまるでモンスターの目みたいだ。これを「大好きな」と言うSくんもすごい…。そんな面白い生態を知って一気にこのテントウムシのことに興味を持ち始めてしまった。早速実物を発見し、観察を続けた。アカホシテントウはウメの木につく害虫タマカタカイガラムシ（どう見ても虫には見えない球状の生物）を専門に食べるので、益虫扱いされている。トゲトゲの幼虫が動かなくなってしばらくすると背中が割れ、中からオレンジ色の蛹が現れた。そこから3週間程待った5月13日、ついに1匹が羽化し始めた。「う、うつくしい…!」蛹から出てきた成虫はあのおぞましい幼虫の姿からは想像できないほど美しく輝いていた。昆虫が、幼虫→蛹→成虫と変態することを「完全変態」と呼び、大きく体の構造を変更する変態の妙は見る者を惹きつける。羽化後は徐々に色づき、約10時間後には本来の赤星が現れた。黒地に映える赤い模様も非常に美しい。羽化の様子を観察し終えて、気づけば私もSくんと同じく、アカホシテントウが大好きになっていた。